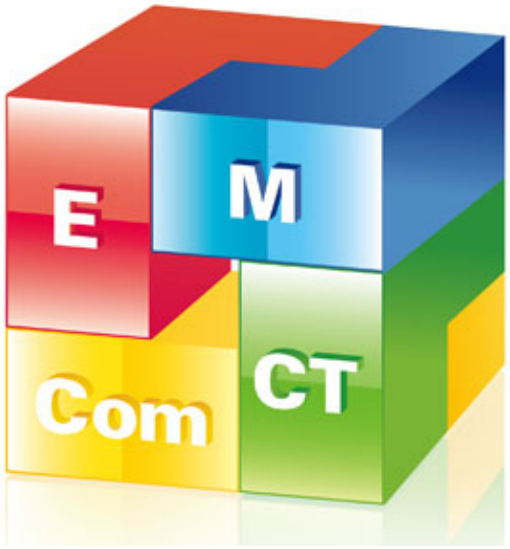
2020年3月期
連結決算説明資料

NEWオリジン NEWステージ



2020年5月21日
株式会社オリジン
証券コード：6513

連結業績

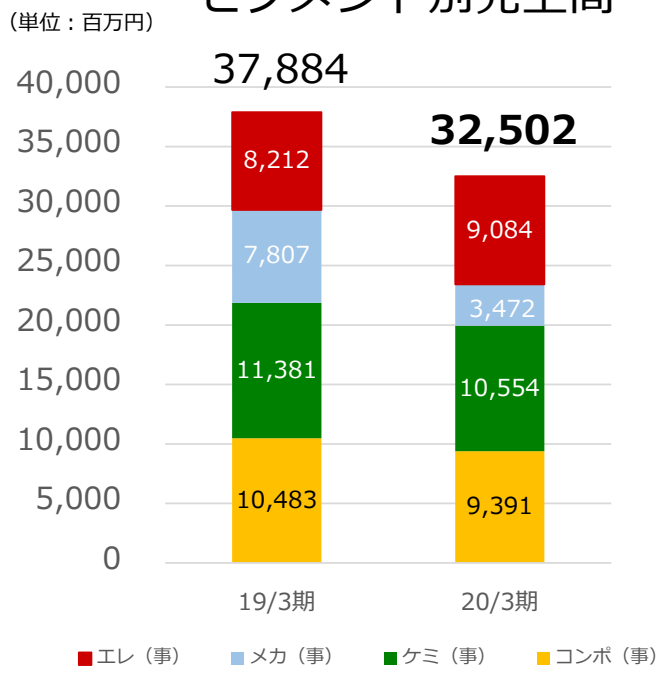
（単位：百万円）

	19/3期	20/3期	前期 増減率
売上高	37,884	32,502	▲ 14.2%
営業利益	2,510	904	▲ 64.0%
経常利益	2,810	1,100	▲ 60.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,900	224	▲ 88.2%
		（単位：円）	
1株当たり当期純利益	287.52	35.09	

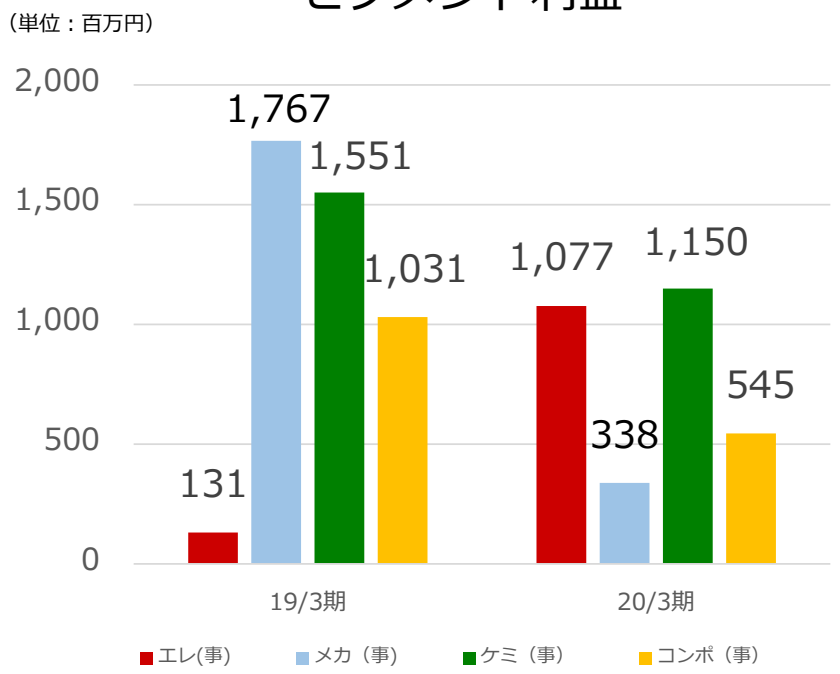
- エレクトロニクス事業の売上高が伸長したものの、他３事業については減収減益となり、全体としても前期比大幅な減収減益

セグメント別連結売上高及び利益（全社費用配賦前）

セグメント別売上高

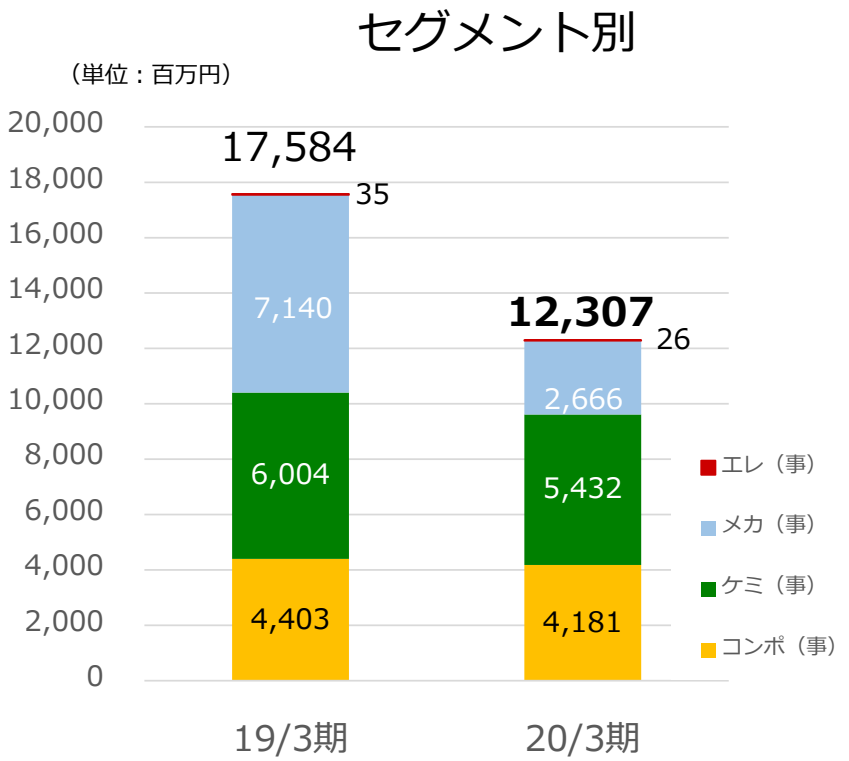


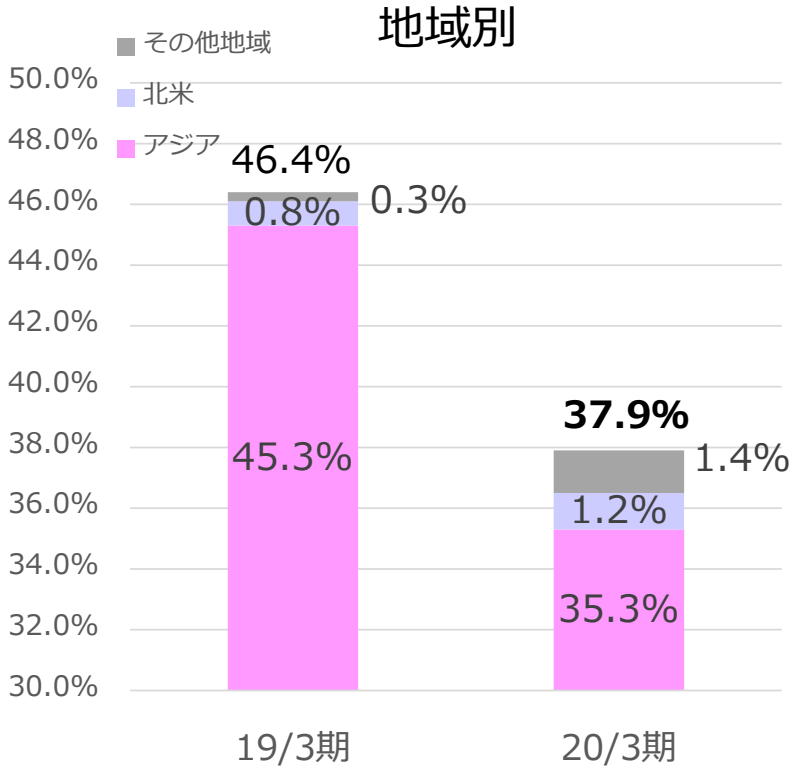
セグメント利益



- エ　レ（事）：注力製品である携帯端末向け無線基地局用電源の伸長、医療用や環境関連の高電圧電源が堅調を維持し増収増益
- メ　カ（事）：MDB(Mobile Display Bonder)は、スマートフォン市場の成熟化による需要鈍化により大幅な減収減益
- ケ　ミ（事）：主力である自動車分野の売上減少と一部海外拠点の低調な売上等が影響し減収減益
- コンポ（事）：装置産業向け等が回復せず減収減益

海外顧客向け連結売上高（セグメント別・地域別）

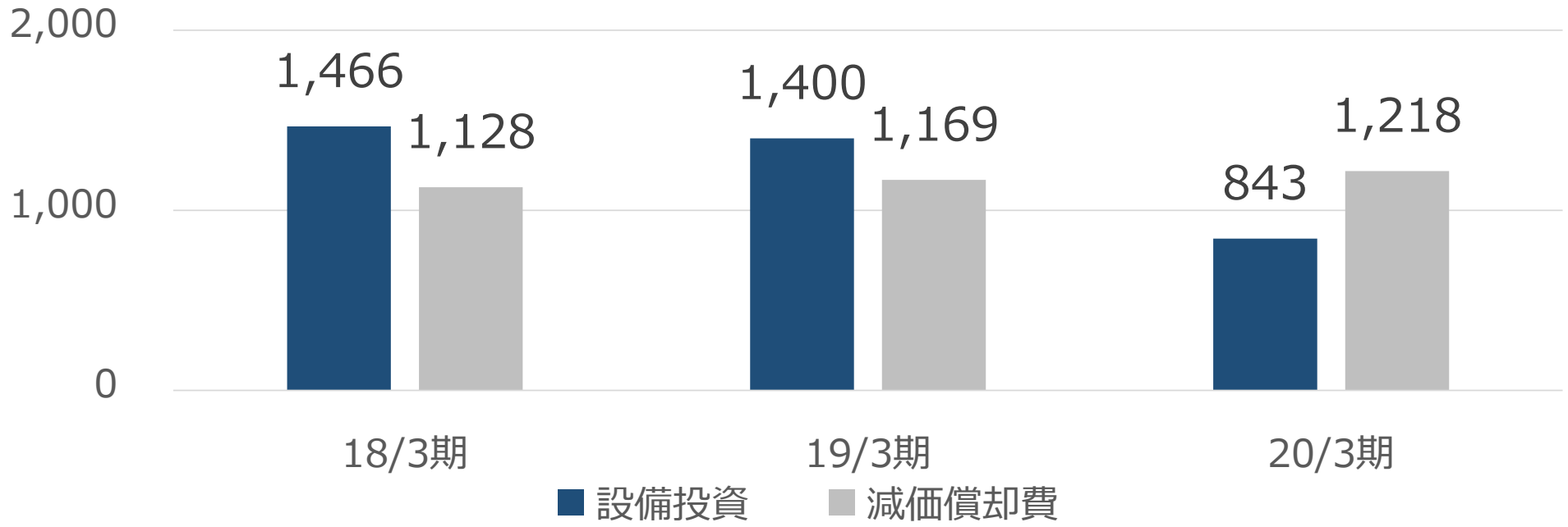




- 前期海外顧客向け連結売上高を押し上げていたメカトロニクス事業のMDB売上が減少し、海外顧客向け売上高・地域別のアジアが大幅減少

設備投資、減価償却費

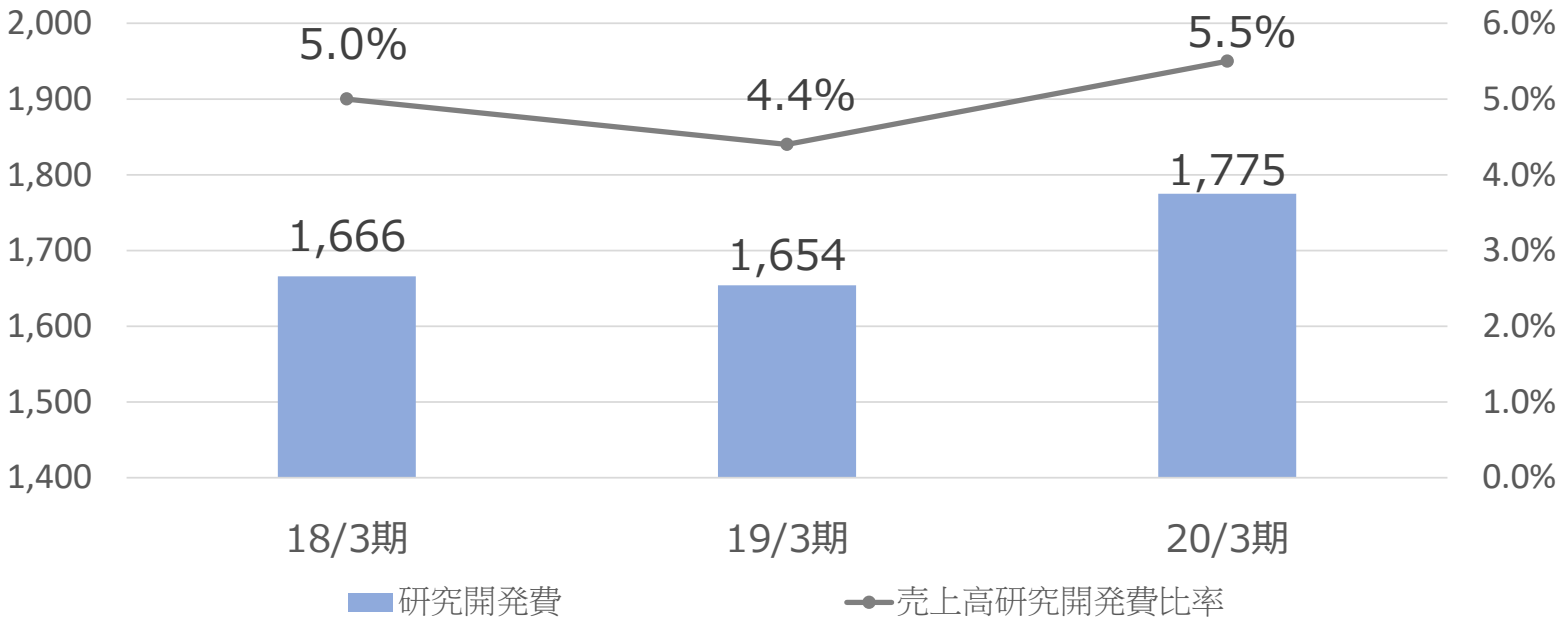
（単位：百万円）



- 18/3期 主な設備投資　・連結子会社東邦化研工業（株）の本社移転に伴う新棟建設
  ・コンポーネント事業の製造装置増強
- 19/3期 主な設備投資　・コンポーネント事業の製造装置増強
  ・旧本社工場跡地に付随する土地購入
- 20/3期 主な設備投資　・コンポーネント事業の製造設備増強及びメカトロニクス事業の実験機製作

研究開発費、売上高研究開発費比率

（単位：百万円）



- 20/3期 研究開発費は開発体制の強化に伴う人員増に起因
- 売上高減少に伴い、売上高研究開発費比率は1.1%増加

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	19/3期 期末	20/3期 期末	前期末 増減額
流動資産合計	27,162	26,704	▲ 457
固定資産合計	18,350	17,695	▲ 654
資産合計	45,512	44,400	▲ 1,112
流動負債合計	14,151	9,330	▲ 4,820
固定負債合計	5,951	10,190	4,239
負債合計	20,102	19,521	▲ 581
純資産合計	25,410	24,879	▲ 531
負債純資産合計	45,512	44,400	▲ 1,112
自己資本比率	50.0%	50.0%	–

- 流動負債減少の主な要因：短期借入金30億円減少
- 固定負債増加の主な要因：長期前受収益（旧本社工場跡地の借地権設定等）　55億8千万円増加

連結キャッシュ・フロー

（単位：百万円）

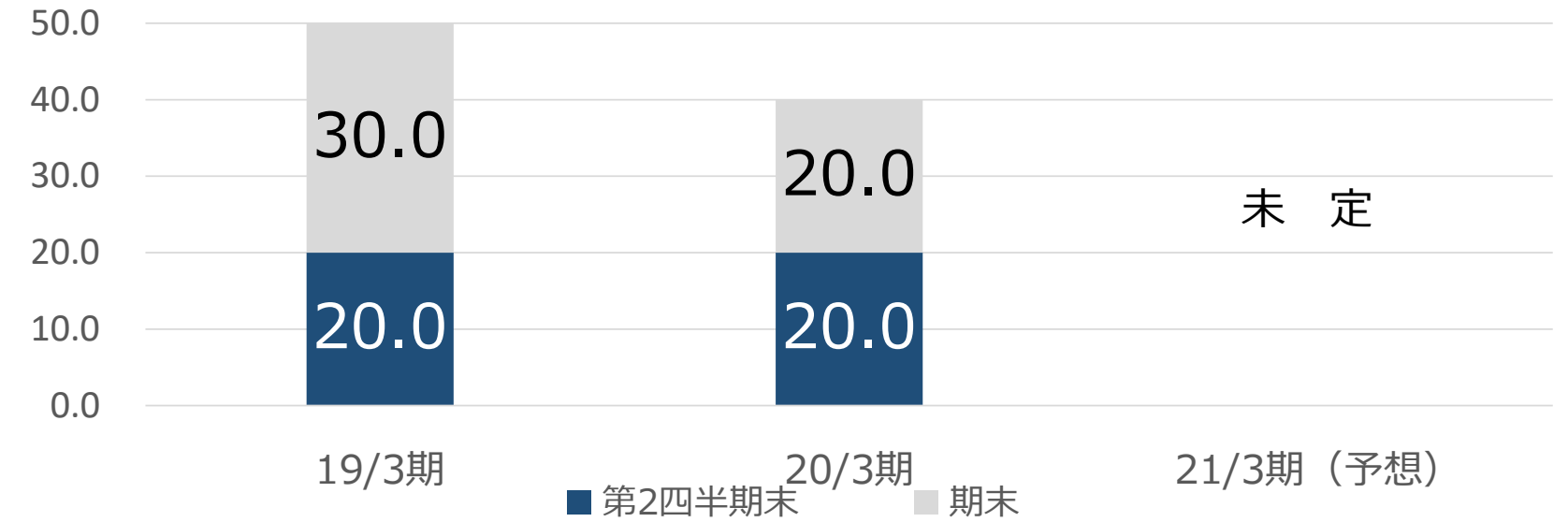
	19/3期	20/3期	前期 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,480	239	▲ 3,241
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,304	4,410	5,714
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 738	▲ 4,338	▲ 3,600
現金及び現金同等物の増減額(▲減少)	1,345	290	▲ 1,055
現金及び現金同等物の期末残高	6,421	6,711	290

主たる要因

- 営業活動によるCF：税金等調整前当期純利益の減少、仕入債務の減少
- 投資活動によるCF：旧本社工場跡地に係る借地権設定等による収入
- 財務活動によるCF：短期借入金の返済

配当の状況

（単位：円）



- 19/3期 期末の配当金は当社配当方針及び業績等を総合的に勘案し、従来予想より10円増配の1株30.0円
- 20/3月 期末の配当金は当社配当方針及び業績等を総合的に勘案し、従来予想の1株20.0円を予定
- 21/3月 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現時点で業績予想の合理的な算出が困難であるため、配当予想は未定とし、業績予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

＜自己株式の取得＞

19/3期	2019年2月8日決議	200,000株（上限）	420百万円（上限）	取得期間2019年2月12日~2019年4月26日
	取得終了	200,000株	385百万円	取得期間2019年2月12日~2019年4月18日
20/3期	2020年2月12日決議	400,000株（上限）	500百万円（上限）	取得期間2020年2月13日~2021年1月29日
	4月末時点	82,900株	113百万円	

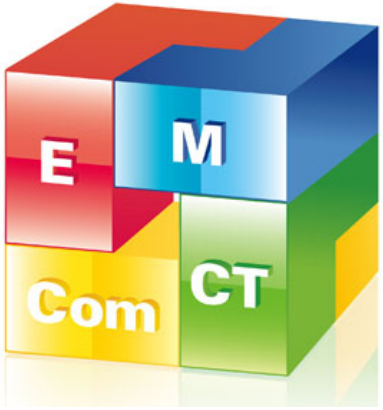
連結業績予想

（単位：百万円）

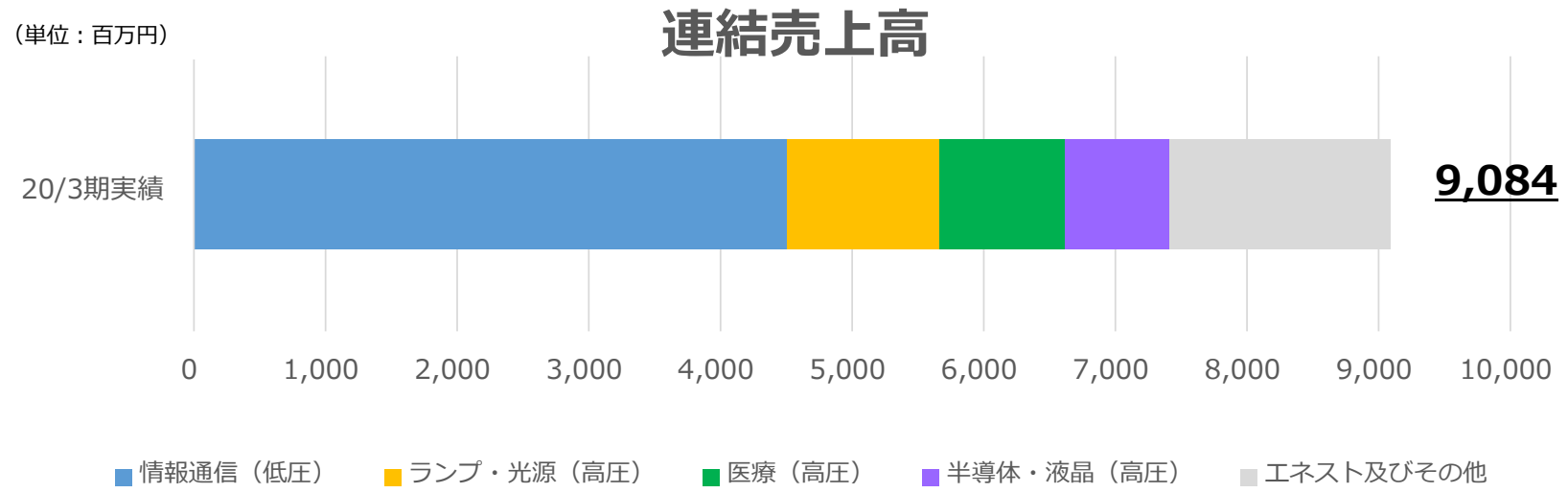
	20/3期　実績	21/3期　予想	前期 増減率
売上高	32,502	–	–
営業利益	904	–	–
経常利益	1,100	–	–
親会社株主に帰属する 当期純利益	224	–	–

- 2021年３月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現時点での合理的な算出が困難であるため未定とし、業績予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

セグメント別



エレクトロニクス事業



20/3期　連結売上高概況、重点施策進捗

- 前期比10.6%増
- 携帯端末向け無線基地局用電源の伸長
- 医療用電源の販売が堅調
- 環境関連の高電圧電源の需要増

21/3期　連結売上高計画

未定

21/3期　重点施策計画

- 高圧事業領域の拡充
  医療用および光源用の高電圧電源の開発推進
- 生産性向上・品質体制の強化
- 主要製品コスト低減による競争力強化

エレクトロニクス事業
20/3期重点施策進捗詳細

【注力製品の活動強化を推進】

◆無線基地局用に屋外設置を前提とした蓄電池搭載電源を投入し販売増

本製品の特徴

・ポールや電柱への設置可能な小型電源（電力密度：鉛装置比 約3倍）

・外装は耐重塩害塗装仕様・放熱は屋外熱交換器を使用

・安全で環境負荷の少ないニッケル水素電池を使用（停電時バックアップ約20分）

・蓄電池寿命予測機能　　・蓄電池切離し機能

今後現行型を機能アップした新製品（更に30%以上の小型化）をリリースし拡販推進

◆環境対応電源の堅調維持

電気集塵器用高電圧電源の国内トップメーカとしての実績、また高い信頼性が評価を得て、

発電所向けなどプラント物件で販売が堅調維持

エレクトロニクス事業
21/3期重点施策計画詳細

【顧客ニーズを取り入れた新製品開発を行い市場投入】

➢ 医療診断用X線電源

デンタル、マンモグラフィー、外科用、回診車、消化器系、循環器系など製品ラインナップを充実

コストダウンを図るとともに、顧客ニーズにマッチした製品の開発を継続し販売増を目指す

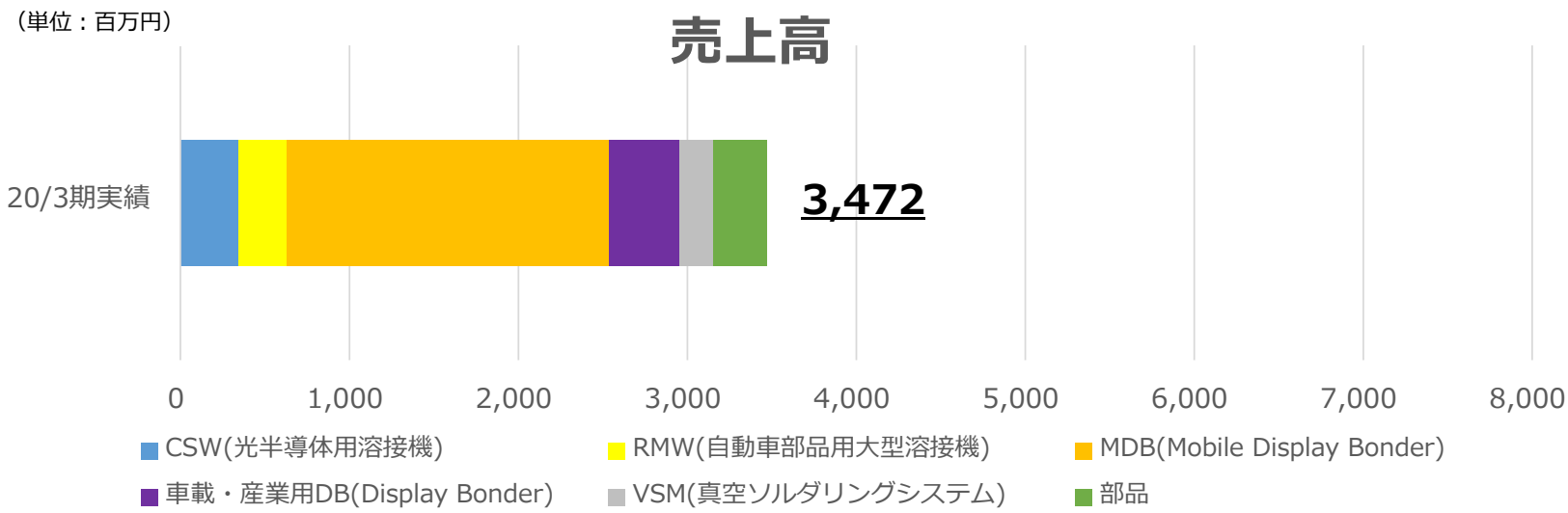
➢ 光源用電源（殺菌用ランプ電源）

小型高効率の殺菌用ランプ電源を開発製品化

顧客ニーズに合わせた最適な回路方式を採用

生産性を設計段階から考慮し、コスト競争力のある製品開発にて更なる販売増を目指す

メカトロニクス事業



20/3期　売上高概況、重点施策進捗

- 前期比５５.５%減
- MDB：スマホ市場鈍化で設備投資伸びず
- VSM：国内、台湾に拡販ｼﾌﾄも売上伸長至らず
- 中国生産機種の拡大及び現地立上体制構築が生産性向上に寄与

21/3期　売上高計画

未定

21/3期　重点施策計画

- 売上高底上げ：拡販強化（DB、VSM、CSW）
- 競争力アップ：高付加価値化・生産性の向上
- 将来の種：新規市場の開拓

メカトロニクス事業
20/3期重点施策進捗詳細

【生産性向上への取組み】

- **中国における生産対応機種の拡大**

  18/3期・19/3期：DB(ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ貼合)全自動機、MDB(ｽﾏﾎﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ貼合)改造

  20/3期：VSM(真空ｿﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞｼｽﾃﾑ)、CSW(光半導体用溶接機)

- **海外(中国・その他)における部品調達・部品製作の推進**

  海外部品、製作ﾒｰｶｰ調査、海外製品採用における評価体制構築

  装置構成部品、ﾕﾆｯﾄの一部海外製品を採用

- **中国現地立上体制の構築・対応力の強化**

  18/3期・19/3期：MDB(ｽﾏﾎﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ貼合)改造、DB(ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ貼合)全自動機

  20/3期：CSW(光半導体用溶接機)

ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ貼合機：NRｼﾘｰｽﾞ

真空ｿﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞｼｽﾃﾑ：MP2

光半導体用溶接機：CS-3.2

中国現地立上体制構築

- ﾛｰｶﾙｴﾝｼﾞﾆｱ・期間工の採用、雇用ﾉｳﾊｳ
- 教育研修(中国・日本)
- 実経験の積み重ねによるﾛｰｶﾙﾘｰﾀﾞｰの育成

効果・期待・実績

- 日本からのｴﾝｼﾞﾆｱ派遣削減、現地ｽﾀｯﾌ主導での現地立上
- 他地域(欧米・ｱｼﾞｱ諸国等)へﾘｿｰｽ振分・事業展開拡大
- ﾘｽｸﾍｯｼﾞ(海外渡航不可時の対応等)

更なる取組みにより生産性向上を図ります

メカトロニクス事業
21/3期重点施策計画詳細

【販売強化への取組み：注力市場と市場動向】

➢ VSM(真空ｿﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞｼｽﾃﾑ)

ﾊﾟﾜｰ半導体市場に注力（日本・台湾・東南ｱｼﾞｱ）

電気自動車をはじめ、次世代車の需要増加に伴う自動車用途に期待

市場別専用機の構築により販売強化を図る

➢ DB(ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ貼合)

車載用途市場に注力(日本・中国・欧米・他)

2023年の世界市場は2億198万枚(2018年比21.3%増)に成長予測*

意匠性重視が強まる市場ﾆｰｽﾞへの提案力にて拡販を図る

*出典：2019-2020年版 車載用ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ市場の現状と将来展望(矢野経済研究所)

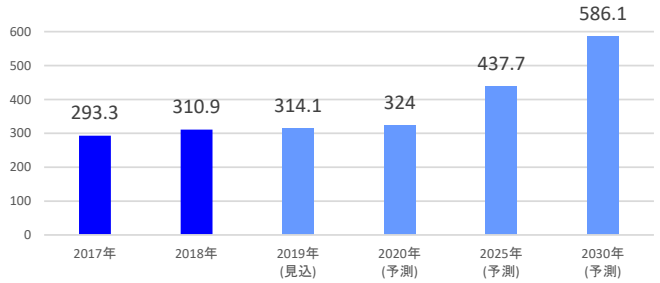
➢ CSW(光半導体用溶接機)

光通信市場に注力(中国・台湾)

5Gｲﾝﾌﾗの急拡大が進む『中国市場』を最大ﾀｰｹﾞｯﾄと位置付ける

車載用半導体の世界市場規模推移・予測

ﾒｰｶ出荷金額ﾍﾞｰｽ(単位:億ﾄﾞﾙ)

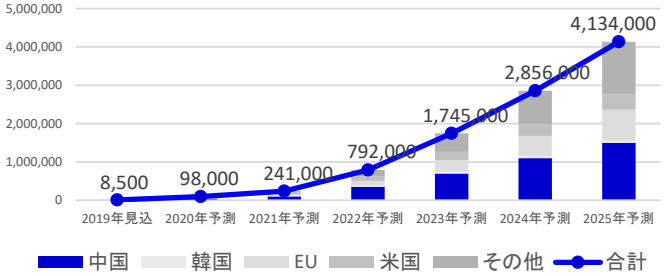


注1. 各年の新車販売台数をもとに、搭載された車載用半導体のﾒｰｶ出荷金額ﾍﾞｰｽで算出した
注2. 2019年は見込値、2020年以降は予測値

出展：2019車載用半導体マーケット分析（矢野経済研究所）

5G(第五世代移動通信ｼｽﾃﾑ)主要国ｻｰﾋﾞｽ契約数予測

5Gｻｰﾋﾞｽ契約数ﾍﾞｰｽ(単位：千契約)



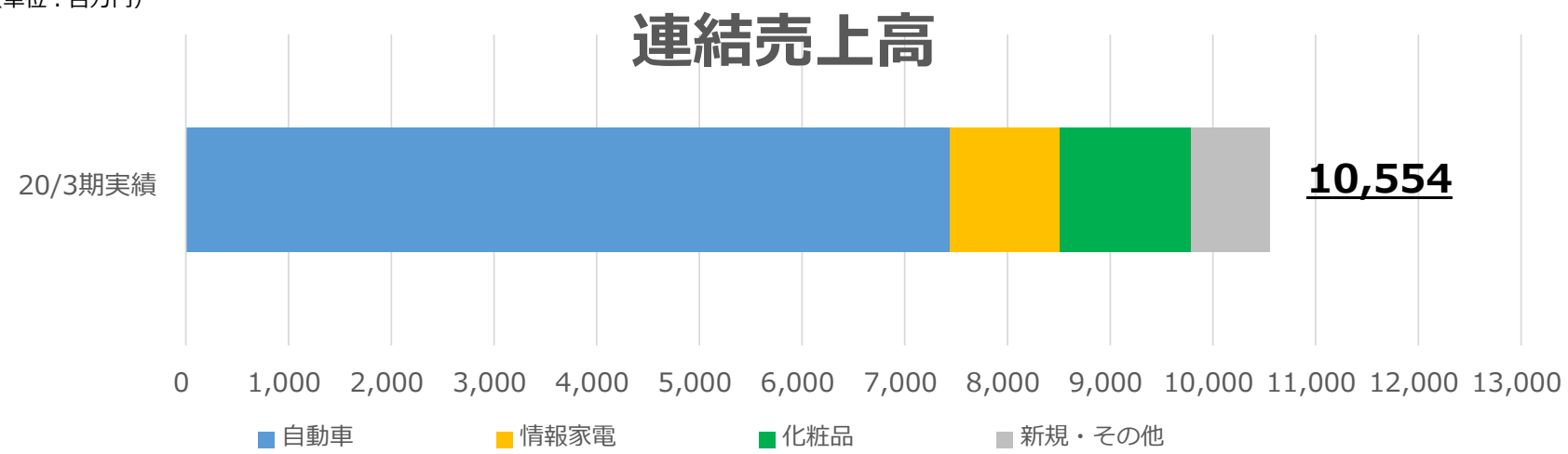
注1. 5Gｻｰﾋﾞｽ契約数ﾍﾞｰｽ
注2. 2019年は見込値、2020年以降は予測値

出展：2019年版５Ｇ移動体サービス市場展望（矢野経済研究所）

経験と実績、生産性向上への取組みにより、注力市場への販売強化を図ります

ケミトロニクス事業

（単位：百万円）



20/3期　連結売上高概況、重点施策進捗

- 前期比7.3%減
- 機能性塗料拡販：7月、9月展示会出展実施
- 西日本地区：人員再編実施
- ASEAN地区情報調査：情報家電分野向けに子会社と営業方針を共有・強化

21/3期　連結売上高計画

未定

21/3期　重点施策計画

- 機能性塗料拡販継続
- 自動車市場・新規市場拡販
- 原価低減活動

ケミトロニクス事業
20/3期重点施策進捗詳細

➢**機能性塗料拡販強化**

・展示会への出展（7月5G/IoT展、9月N+展、2月機械要素技術展）及び来場者へのアフターフォロー実施

・展示会出展者への営業活動及び他事業部等と連携した新規顧客へのアプローチ実施

➢**西日本地区拡販力強化**

・（株）オリジン商事への人員出向により、関西地区営業力強化

➢**ASEAN地区情報調査**

・情報家電メーカーをターゲットとして営業方針を子会社と共有
各社へ情報収集を行うなど、提携体制を整えた

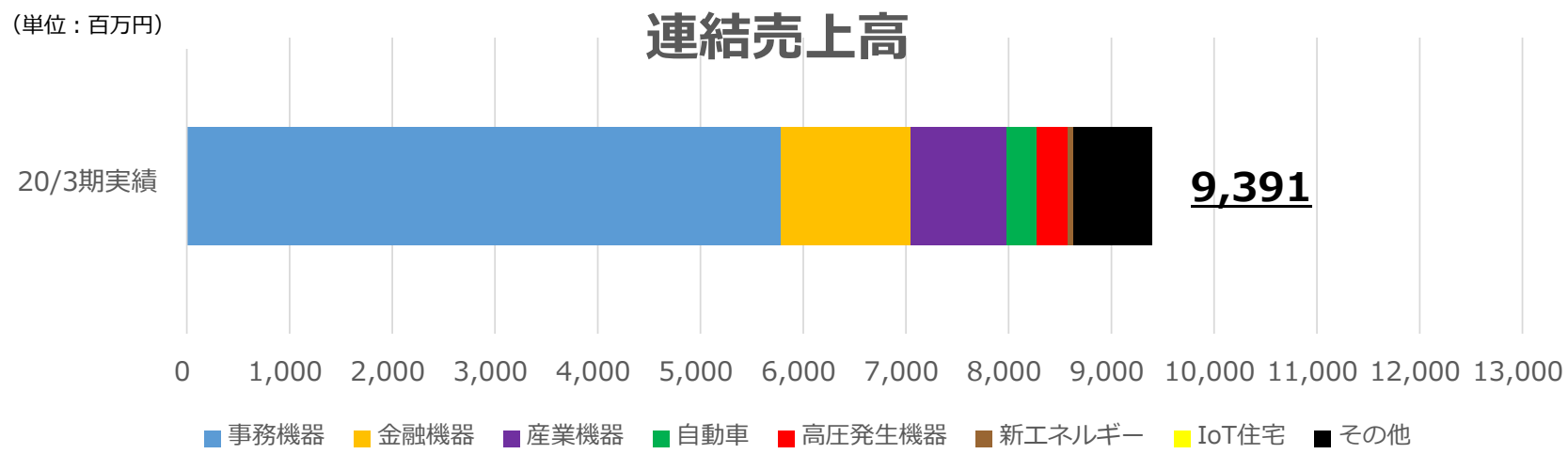
ケミトロニクス事業
21/3期重点施策計画詳細

- **機能性塗料拡販継続**
  - ・開催可能な展示会へ引き続き出展
  - ・前期にてアプローチした新規市場顧客への継続フォローにて機能性塗料の拡販を図る

- **自動車市場、新規市場拡販**
  - ・既に実績の有る自動車部品向けに商品力強化を図り、更なるシェアUPに取り組む
  - ・先端自動運転補助システム（ADAS）や電気自動車（EV）技術に関連した、新たな市場への機能性塗料の採用拡大や、自動車以外の分野、特にインフラ市場への取組みの強化を図る

- **原価低減活動**
  - ・生産技術課の新設、部を跨いだ人選での原価低減タスクフォースチームの設定など、各所にてコストダウンを検討する体制を整え、利益体質の更なる改善を目指す

コンポーネント事業



20/3期　連結売上高概況、重点施策進捗

- 前期比10.4%減
- 主力の事務機市場向け売上減
- 産業機器市場、自動車市場売上減
- 自動車市場向け新製品開発推進

21/3期　連結売上高計画

未定

21/3期　重点施策計画

- 高圧発生市場（医療、工業用X線装置）拡大
- 精密機構部品の自動車市場向け新製品開発
  量産化に向けた体制確立

コンポーネント事業
20/3期重点施策進捗詳細（精密機構部品）

➢新市場開拓

ターゲット市場：自動車市場、ロボット市場、住宅設備市場

近年、EV自動車や電動ブラインドなど電動で動く物が増え、駆動部の安全機構として

『小型高トルクリミッタ』が世の中のニーズにマッチし各種引合いを獲得

➢製品群の拡充（シリーズ化）

・小型高トルクリミッタ

・ACベアリング（＊新サイズ）

・防塵・防水環境用軸受

小型高トルクリミッタ

ACベアリング

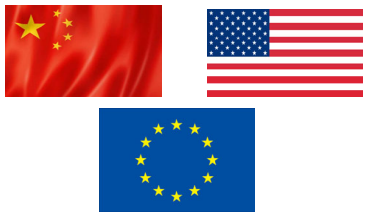
防塵・防水環境用軸受

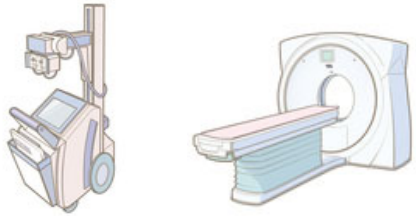
コンポーネント事業
20/3期重点施策進捗詳細（半導体デバイス）

➢ 医療機器向け販売強化と製品ラインナップ拡充

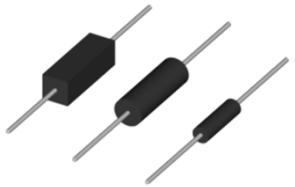
高圧ダイオード（15kV品）

医療機器向けに8kV製品に加え、新たに15kV製品を投入し、
日本国内に加え中国・欧米への拡販活動を強化、ターゲット顧客への採用決定





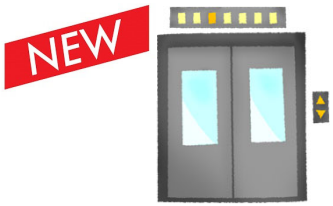
高電圧を出力しX線を発生



MD15FP3

サージアブソーバのラインナップ拡充および拡販

既存製品サージアブソーバ（弊社製品名：サージクランパ）のラインナップを拡充し、
遊技機等の既存市場シェアアップに加え、新たにエレベータや駐車場システムへの新規採用が決定



コンポーネント事業
21/3期重点施策計画詳細(精密機構部品)

➢新市場(自動車市場)へ参入

・新製品・安全機構用『小型高トルクリミッタ』の量産立上に向け開発検証を継続

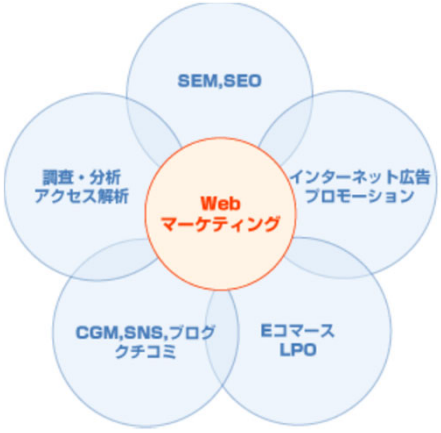
・日程遅延なくオンタイムさせると共に、生産体制・品質体制の構築を図る

小型高トルクリミッタ

➢海外市場へのマーケティング強化

・デジタルマーケティングを活用し、欧州・米国・中国を中心とした海外市場への拡販活動を推進

・エリアパートナー戦略により、現地商社を活用した提案活動も強化し新規顧客の獲得を狙う

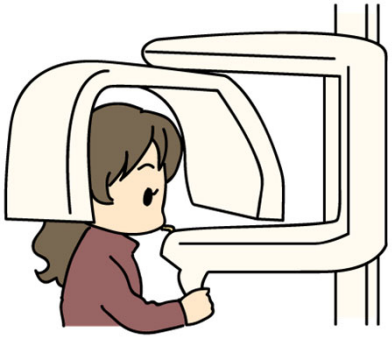


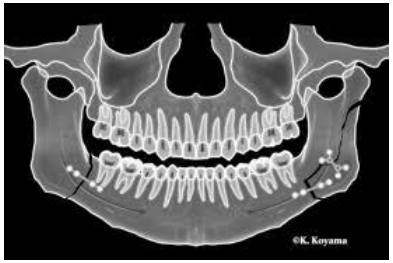
コンポーネント事業
21/3期重点施策計画詳細（半導体デバイス）

➢ 高圧ダイオード拡販及び車載向けマーケティング活動強化

高圧ダイオードの売上拡大

採用実績の乏しい歯科用X線や高周波高圧電源などへのさらなる参入拡大を目指し、
15kV製品300mA品に加え20kV500mAや8kV500mA**超高速品**の新製品を開発し、
ラインナップの拡充を図る





◇当資料は株式会社オリジンが作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。

◇当資料に掲載しております情報は、2020年3月期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる保証を行うものではありません。

◇業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在していますので、実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。

◇当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。

プレス・アナリスト・機関投資家様　個別取材窓口

株式会社オリジン

経営企画本部

TEL:048-755-9422